

# 品目別の「強み」のある農畜産物づくりの方向(例)

## 米



中食・外食用、飼料用等の非主食用にも

対応した多角的生産へのチャレンジ

- 単収700kgを超える多収品種・技術の開発・導入等による中食・外食用需要に応える 低コスト生産へのチャレンジ
- 飼料用米等の新規需要米、加工用米の超多収 専用品種・超低コスト生産技術の開発・導入

## 麦



国産麦の需要フロンティアの開拓

- ラー麦（福岡県のラーメン向け品種）のような各地域の特色のある麺・粉物等と結びついた品種の開発・導入
- 実需者からの評価を栽培管理に反映し、収量・品質を向上・安定化

## 豆類



実需者の期待に応える国産豆類の生産拡大

- 使い慣れた主要品種の欠点をピンポイントで改良し、高位・安定生産に資する品種へ転換
- 実需と連携して、収量が安定し、加工適性や価値ある特徴を持った品種を開発・導入

## 野菜



加工・業務用にターゲットを定めた低コスト野菜生産の拡大

- 加工・業務用需要向けの大型規格・多収品種、低コスト機械化・流通システムの開発・導入
- 伝統的野菜や機能性成分等に着眼した野菜品種の導入

## 果樹



おいしい、食べやすい、健康によいで国産果実の需要を拡大

- 良食味で食べやすい、機能性成分高含有の新品種、加工適性に優れる新品種等の育成
- 鮮度保持、加工等技術の開発
- 機能性成分の解明と成果の普及

## 花き



日本の品種開発力を活かした国産シェア奪還と輸出拡大

- 国産シェアの奪還と輸出の拡大のため、国内外のニーズに対応した品種を開発
- 耐病性、日持ち性などの形質を持った花を研究機関が提供するなどして、民間・個人育種家の品種開発を支援

## いも

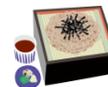
### さとうきび・てんさい



病害虫に強い、実需の求めるいも生産への転換(いも) 研究機関、製糖企業と連携した新品種・新技術での生産の安定化(さとうきび、てんさい)

- 病害虫や気候変動に強い品種を開発・導入
- 省力化栽培、エチレン貯蔵等の新技術を活用した、生産安定化対策の推進

## そば



実需者に信頼される国産そばの生産・需要拡大

- 収量の向上・安定化に資する品種・技術の導入
- 製粉適性や新たな価値を訴求できる特徴をもった新品種の開発・導入

## 畜産物



「おいしさ」が消費者に伝わる畜産物づくりと効率的生産によるコスト削減

- 脂肪交雑だけでなく、オレイン酸などの訴求点（「おいしさ」）の明確化・見える化
- ICTや遺伝子情報の活用による生産の高度化
- 飼料コストを下げる品種及び生産技術の開発・導入

## 茶



国民の健康志向や輸出先のニーズなどに応じた茶生産による需要回復

- 生産性向上のため、「やぶきた」以外の品種の開発・導入で作期を分散
- 需要拡大のため、低カフェイン技術の導入や機能性成分を多く含む新品種の開発・導入